患者向医薬品ガイド
2024年5月更新

クリンダマイシンリン酸エステル注射液300mg「NP」
クリンダマイシンリン酸エステル注射液600mg「NP」

【この薬は？】

販売名	クリンダマイシンリン酸エステル注射液300mg「NP」 Clindamycin Phosphate Injection	クリンダマイシンリン酸エステル注射液600mg「NP」 Clindamycin Phosphate Injection
一般名	クリンダマイシンリン酸エステル Clindamycin Phosphate	
含有量 （1アンプル中）	300mg（力価）	600mg（力価）

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

・この薬は、リンコマイシン系抗生物質と呼ばれるグループに属する薬です。
・この薬は、感染症の原因である細菌の増殖を阻止し、炎症症状を改善します。
・次の病気の人に処方されます。

〈適応症〉
敗血症、咽頭･喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、中耳炎、副鼻腔炎、顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎
〈適応菌種〉
クリンダマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属、マイコプラズマ属

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

〇次の人は、この薬を使用することはできません。

・過去にクリンダマイシンリン酸エステル注射液「NP」に含まれる成分やリンコマイシン系抗生物質に対し過敏症のあった人

・エリスロマイシン（エリスロシンなど）を使用している人

〇次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

・衰弱している人、過去に大腸炎などにかかったことがあった人

・アトピー性体質の人

・重症筋無力症の人

・腎臓に障害のある人

・肝臓に障害のある人

・妊婦または妊娠している可能性のある人

・授乳中の人

〇この薬には併用してはいけない薬［エリスロマイシン（エリスロシンなど）］や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

・この薬は注射薬です。

●使用量および回数

・使用量、使用回数等は、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。
通常の使用量および回数は、次のとおりです。

〔点滴静脈内注射〕

	成人	小児
１日量（小児は体重から計算）	クリンダマイシンとして600～1,200mg（力価）	クリンダマイシンとして15～25mg（力価）/kg
１日最高量（難治性または重い感染症の場合）	クリンダマイシンとして2,400mg（力価）	クリンダマイシンとして40mg（力価）/kg
注射する回数	１日に２～４回、30分～１時間かけて点滴静注します。	１日に３～４回、30分～１時間かけて点滴静注します。

〔筋肉内注射〕

	成人
１日量	クリンダマイシンとして600～1,200mg（力価）
注射する回数	１日に２～４回、筋肉内注射します。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

・この薬により、まれに発熱、腹痛、白血球増多、粘液・血液便を伴う激症下痢を主な症状とする重篤な大腸炎である偽膜性大腸炎があらわれることがあります。使用している間または使用後２～３週間までに腹痛、頻回な下痢があらわれた場合には、ただちに使用を中止し、医師に連絡してください。
・汎血球減少、無顆粒球症、血小板減少、好酸球増多、白血球減少、顆粒球減少があらわれることがありますので、血液検査などが行われることがあります。
・肝機能障害、黄疸があらわれることがありますので、定期的に肝機能検査などが行われることがあります。
・急性腎障害、BUN の上昇、クレアチニンの上昇、窒素血症、乏尿、蛋白尿があらわれることがありますので、定期的に腎機能検査などが行われることがあります。
・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
・授乳している人は医師に相談してください。
・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。
このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、息苦しい
偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎 ぎまくせいだいちょうえんとうのけつべんをともなうじゅうとくなだいちょうえん	腹痛、血の混ざったゆるい便が出る、ゆるい便が出る、発熱、頭痛、吐き気、冷汗が出る、顔面蒼白、手足が冷たくなる、お腹が張る、激しい腹痛、下痢、嘔吐（おうと）、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色）、水のような便が出る
中毒性表皮壊死融解症（Toxic Epidermal Necrolysis：TEN） ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう（トキシックエピダーマルネクロリシス：テン）	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん（スティーブンスージョンソンしょうこうぐん）	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する

重大な副作用	主な自覚症状
急性汎発性発疹性膿疱症 きゅうせいはんぱつせいほっしんせいのうほうしょう	発熱、皮膚が広い範囲で赤くなる、ところどころに小さな膿をともなう発疹が出る
剥脱性皮膚炎 はくだつせいひふえん	ほぼ全身の皮膚が発赤する、フケやかさぶたのようなものを付着し、それがはがれ落ちる、発熱をしばしば伴う
薬剤性過敏症症候群 やくざいせいかびんしょうしょうこうぐん	皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、発熱、体がだるい、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
PIE症候群 ピーアイイーしょうこうぐん	発熱、咳、息切れ、息苦しい
心停止 しんていし	気を失う
汎血球減少 はんけっきゅうげんしょう	めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきの出血、息切れ、動悸、あおあざができる、出血しやすい、発熱、寒気、喉の痛み
無顆粒球症 むかりゅうきゅうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、ふらつき、発熱、発熱をしばしば伴う、体がだるい、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ、出血しやすい、寒気、突然の高熱、出血が止まりにくい、疲れやすい、力が入らない、体がかゆくなる、むくみ
頭部	めまい、意識の消失、頭痛、気を失う
顔面	顔面蒼白、鼻血
眼	目の充血やただれ、白目が黄色くなる
耳	耳鳴り
口や喉	喉のかゆみ、吐き気、嘔吐、唇や口内のただれ、咳、歯ぐきの出血、喉の痛み
胸部	動悸、息苦しい、息切れ
腹部	腹痛、お腹が張る、激しい腹痛、食欲不振
手・足	手足が冷たくなる

部位	自覚症状
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、皮膚が広い範囲で赤くなる、ところどころに小さな膿をともなう発疹が出る、ほぼ全身の皮膚が発赤する、フケやかさぶたのようなものを付着し、それがはがれ落ちる、全身性の発疹、あおあざができる、皮膚が黄色くなる
便	血の混ざったゆるい便が出る、ゆるい便が出る、下痢、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色）、水のような便が出る
尿	尿の色が濃くなる、尿量が減る

【この薬の形は？】

性状	無色～淡黄色澄明の液
pH	6.0～7.0
浸透圧比	約３（生理食塩液に対する比）

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	クリンダマイシンリン酸エステル
添加剤	ベンジルアルコール、クエン酸水和物、水酸化ナトリウム

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ニプロ株式会社（https://www.nipro.co.jp/）

医薬品情報室

電話：0120-226-898

受付時間：９時～17 時 15 分

（土、日、祝日、その他弊社休業日を除く）